

おぐにの歴史を未来につなぐ 発信と交流の拠点へ

令和6年5月26日に町の歴史民俗資料館である「おぐにふるさと文化館『百石』」がグランドオープンしました。今回は施設の概要について紹介するとともに、先人から受け継がれてきた歴史や文化をどのように未来につないでいくのか、そのあり方について考えます。



開館までの道のり

広大なブナ林をはじめ、豊かな森林の広がる本町では、四季折々に様々な山の恵みをいただきながら暮らしや生業（なりわい）が営まれてきました。その中で用いられてきた生活の道具（民具）や書き記された歴史資料。それらを後世に遺そうと昭和30年代後半から小国町文化財研究会等が中心となり、資料の収集や文化財の目録作成が始まりました。その後も教育委員会では様々な郷土資料の収集を続け、現時点での収集資料は約8000点に上ります。

これらの資料については、白い森くらしの資料館（旧法務局小国出張所）や小国中学校旧寄宿舎「やまなみ寮」などに保管し、その一部を公開していました。しかし、施設の老朽化に伴い適正な保存、展示が困難になってきたこと

から、新たな施設の整備が必要となりました。

また一方で、小中学校の統廃合により、閉校校舎の利活用も本町の課題となっていました。そこで校舎の完成が最も新しい旧伊佐領小学校（平成23年閉校）を新たな資料館として整備することとなりました。事業は令和2年度から始まり、できるだけ元の校舎を活かした環境改善や資料の移動・配架、展示解説パネル制作などを行いました。昨年10月にはプレオープンを実施するとともに、町民のかたから愛称を募集し、「おぐにふるさと文化館『百石』」に決定しました。そして本年5月26日にグランドオープンを迎えることになったのです。

ぶな文化の継承と発信

おぐにふるさと文化館「百石」（以下、文化館）は、資料を収集・研究し、保存する

ことにより、本町の歴史を掘り起し、歴史文化遺産を後世に伝える役割を持つています。また、資料を展示し、学校教育や社会教育等で活用することで、本町の歩みやぶな文化を伝え、ふるさとおぐにに対する愛着の醸成を促すほか、小国町を訪れたかたに対し、本町の歴史・文化を紹介する発信拠点にもなります。

文化館には考古資料や民具といった郷土資料のほか、閉校となった各小中学校の教育資料も展示しています。常設展示では3つのテーマを設定し、これらの資料を整理、展示しています。また今後、古文書等の歴史資料についても企画展などで展示していく予定です。

伊佐領小学校の閉校以来、校舎を管理してきた伊佐領・箱口地区校舎管理組合の志田藤夫組合長は文化館に対し、「今まで集めた資料を有効に活用し、子どもたちや町外の

■常設展示について

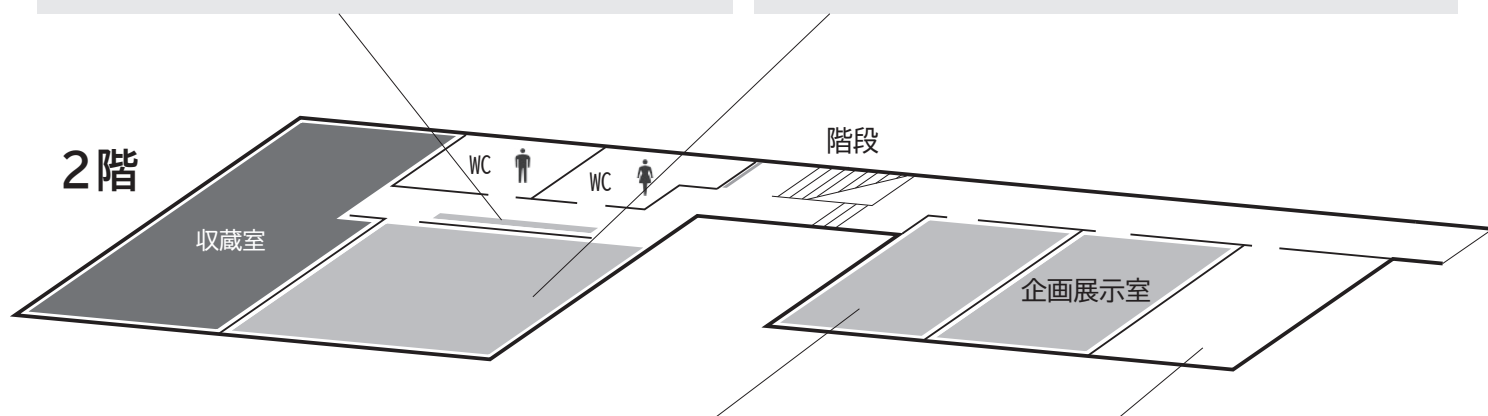
テーマⅠ 自然とともに生きた先史時代の人びと

町内最古の遺跡である岩井沢遺跡をはじめ、後期旧石器時代から縄文時代晩期までの遺跡を紹介するとともに、土器や石器などの出土遺物を展示し、先史時代の暮らしや交流について解説しています。



テーマⅡ 「白い森で育まれてきた暮らしと生業」

本町の暮らしの中で使用されてきた生活や生業の道具（民具）を6つのゾーン（樹皮・つる細工、稲作農業など）に分けて展示し、白い森で育まれてきた暮らしや里と山の生業について紹介しています。



テーマⅢ 「白い森に息づく地域の学び舎」

本町の学校統合の変遷や統合小中学校（小玉川小中学校、玉川小中学校、伊佐領小学校、白沼小中学校、北部小中学校、沖庭小学校）について紹介するとともに、近代小国郷の教育について知ることができる貴重な資料を展示しています。



交流スペース

教室をそのまま使い開校時の様子を再現しています。講座やワークショップ、会議など様々な用途で利用できます。



※1階には本町の歴史年表や、県指定文化財にもなっているそろばん玉石などの珍しい岩石を展示するとともに、休憩スペースを設けています。



▲地域おこし協力隊
欠端彩乃隊員

文化館の整備は歴史民俗資料館整備活用検討委員会をはじめ、伊佐領・箱口地区のかたがたや町内の有識者などから、多くの意見をお聴きし、進めてきました。学芸員の資格を有する地域おこし協力隊の欠端彩乃隊員に文化館に対する思いや今後の文化館の活用等について聞きました。

歴史を未来につなぐ 交流の拠点へ

かたにも訪れていただけの施設になってほしいです。また、地域の皆さんが作ったもの、描いたものなどを展示できる場所としても期待しています。今後、もっと魅力ある施設になっていくことを楽しみにしています」とお話しくださいました。



▲当時の学校生活を懐かしむ伊佐領小学校卒業生の皆さん

「文化館は文化交流施設としての側面も持っており、ぜひ町民のかたがたに広く活用していただきたいです。資料の価値に気づき、今まで守ってきたくれたかたがたのおかげで、私たちは昔の生活や文化などを知ることができします。今後、貴重な資料を次代に引き継ぐためには、歴史や文化を知ることのできる場所、またそれらを守り伝えていく立場の人間が必要となつてきます。それには、これから町の歴史や文化を受け継

【おぐにふるさと文化館「百石」について】

- 開館日 毎週木・金・土曜日
- 開館時間 午前10時から午後4時まで
(最終入館時間午後3時30分)
- 入館料金 (1人あたり)
中学生以下 無料 / 高校生以上 100円
10人以上の団体 50円
- 所在地 小国町大字伊佐領178番地
- 問合先 小国町教育委員会 (☎62-2141) へ

【令和6年企画展の予定】

- ①企画展1 「私たちの『おぐに保育園』(仮)」
■期間 8月中旬～9月上旬頃
■内容 令和3年度に閉園した「おぐに保育園」の移り変わりや園行事の様子を紹介
- ②企画展2 「小国郷の祝い膳(仮)」
■期間 10月上旬～11月上旬頃
■内容 町内の祝い膳について写真やお膳、食器等で紹介

いでいく若い世代のかたが文化的資料に触れるきっかけを文化館で作ることが大切だと思います。町民のかたがたにイベントのアイデアなどを広く募り、地域や町全体で作り上げる施設にしていきたいです」

文化館では今後、企画展やワークショップ、ギャラリートーク等を予定しています。また、文化交流施設としてイベントや展示会の開催、会議

や研修での利用など幅広い分野での活用も可能です。

町では、ふるさとおぐにの歴史・文化を未来につなげていくため、今後も文化財や民俗文化、伝統文化の保護・継承と、それらの発信と活用に取り組みとともに、そうした活動・交流の拠点として、おぐにふるさと文化館「百石」が町民のかたがたに愛される魅力的な施設になるよう努めていきます。

おぐにふるさと文化館「百石」のグランドオープン記念式典

5月26日、おぐにふるさと文化館「百石」のグランドオープン記念式典が行われ、関係者や地元住民、一般のかたなど約50人が参加しました。式典では施設名を考案されたかたへの表彰のほか、文化館整備概要の説明が行われました。

また、記念講演として、東北文教大学人間科学部特任教授の菊地和博氏が「地域文化活用と『共に味わう楽しさ』を求めて一足元を掘る・そこに泉が湧くー」というテーマで、本町の歴史・文化の特徴やそれを地域づくりにどのように活かしていくのかについて講演されました。

このほか、グランドオープン記念企画として、伊佐領地区のかたがたが笹巻き・きなこづくり講座を開催し、小学生の親子13人が参加しました。きなこづくりでは、文化館の収蔵品である石臼で大豆をひく体験が行われ、子どもたちは重い石臼に驚きながら、一生懸命きなこを作っていました。



▲菊地和博氏による記念講演の様子



▲笹巻き・きなこづくり講座

■おぐにふるさと文化館「百石」の名前について

この名前を考案したかたにその由来やどのような思いが込められているのかについてうかがいました。

・「おぐにふるさと文化館」考案者 渡部仁氏（伊佐領）

「どのような施設であるのかわかりやすく、子どもでも読める名称がいいのではないかと思います。おぐにの文化を過去、現在、未来とつないでいってほしいという願いを込めています」

・「百石」考案者 高橋和衛氏（伊佐領）

『百石』はこの地区に伝わる大鷲伝説に由来します。伝説の舞台となった百石山はやまがた百名山のひとつであり、伊佐領・箱口地区に住む人にとっても馴染み深いものです」



▲渡部仁氏（前列左から4人目）高橋和衛氏（前列左から3人目）